

『懷徳』総目次(1号～50号)

1号(大正13[1924]年7月、懷徳堂堂友会)

- 発刊の辞
- 祝辞(永田仁助)
- 祝辞(松山直蔵)
- 堂友会の成立を賀して(西村時彦)
- 藤樹先生学問の骨髓(松山直蔵)
- 支那文明の復興と日本(辜鴻銘)
- 懷徳堂堂友会記事
- 平野含翠堂の旧址を視る(小沼量平)
- 冬季茶話会
- 春季探勝会(小沼量平)
- 末吉家訪問(岡田玄碩)
- 詩仙堂に遊ぶ(小沼量平)
- 堂友会員名表
- 彙報

2号(大正14[1925]年2月、懷徳堂堂友会) 碩園先生追悼録

- 序
- 碩園西村先生の略歴
- 碩園先生の面影
 - (一)老媪物語
 - (二)甲午朝鮮陣之序
 - (三)水戸游記
 - (四)南島偉功伝の末節
- 碩園先生懷徳堂重建当時の講演「懷徳堂の由来と将来」
- 碩園先生著述目録
- 碩園先生旧蔵楚辞類書目
- 追悼本録
 - 原稿の朗読(北里龍堂)
 - 故西村先生を憶ふ(小西宗次)
 - 読延徳本大学章句(安井小太郎)

- 碩園君の逸事(磯野秋渚)
- 西村時彦君の事ども(河内礼蔵)
- 西村天囚君を追懐す(堀田蘇山)
- 西村博士追悼の辞(愛甲兼達)
- 天囚君の追憶(土屋大夢)
- 「友」(木崎愛吉)
- 趣味の西村博士(後醍院盧山)
- 碩園先生を哭す(岡山源六)
- 天囚先生の原稿を集めて(大江素天)
- 追懐遺事三篇(中井木菟麻呂)
- 噫天囚西村先生(田中常憲)
- 西村碩園君逝去に就て(羽生俊助)
- 追憶談(狩野直喜)
- 碩園博士の初年と晩年(滝川亀太郎)
- まだ五年(笹川満堯)
- 懐西村先生(河内久彦)
- 祭碩園西村先生(岡田英)
- 噫々碩園先生(肥後鉄二)
- 私の観た西村博士(岡野告天子)
- 故碩園西村博士を懐ふ(八坂正二)
- 文学博士西村碩園博士を懐ふ(谷山初七郎)
- 晩年の碩園先生(有馬純彦)
- 教室に於ける西村先生(松浦嘉三郎)
- 人格者西村先生(鮫島宗也)
- 「三十年の家」と別れられし翁(緒方竹虎)
- 追悼天囚先生(平山竹斎)
- 碩園博士と図書館(今井貫一)
- 西村先生を追想す(西村時直)
- 千枚漬を買上げられた話(坂本静一)
- 御発病前の二三事(梅園良正)
- 追憶談(山内愚僊)
- 噫西村先生(前田幸麿)
- 追憶談(永田仁助)
- 追憶談(村山龍平)
- 哭碩園西村博士(藤沢章)
- 西村さんと陶詩(原田棟一郎)

- 思ひ出ごとの記(植田政蔵)
- 天囚博士と張之洞(岡幸七郎)
- 思ひ出づるまま(山口察常)
- 西村天囚先生を懐ふ(最上宏)
- 先生の遺訓(武内義雄)
- 古月楼を訪ふ(財津愛象)
- 碩園先生の逝去を聞きて(吉田鋭雄)
- 松枝町と私(吉田鋭雄)
- 西村博士を憶ふ(稲束猛)
- 碩園博士を追憶するまま(松山直蔵)
- 西村博士を憶ふ(後醍院良正)
- 西村先生を偲びて(太田勘兵衛)
- 碩園先生輓歌(葛城春成)
- 故西村先生追悼祭並告別式記録
- 碩園先生追悼録編輯日誌
- 大正十四年度懷徳堂講義講演

3号(大正14[1925]年8月、懷徳堂堂友会)

- 論説
 - 国体の擁護(千賀鶴太郎)
 - 近世大坂の絵画(稲束猛)
 - 天理人欲説の淵源について(松山直蔵)
- 講義
 - 周易程伝復卦講義(松山直蔵)
- 雑録
 - 大正13年懷徳堂記念会事業概要
 - 大正13年懷徳堂記念会常祭
 - 大正14年東山春宴
 - 大正14年開講式
 - 堂友会秋季探勝会
 - 同定期総会
 - 冬季茶話会
 - 同春季探勝会
- 彙報
 - 懷徳堂記念会記事
- 懷徳堂同人会近況

- 名誉会員并新入会員
- 会員消息
- 付録
 - 懷徳堂第9年1期講義講演日誌
 - 会員住所

4号(大正15[1926]年5月、懷徳堂堂友会)

- 芸文
 - 最近二三十年中中国新発見の学問(上)(王国維)
 - 始皇本紀を読み—坑儒史実の一説に及ぶ(今西茂喜)
 - 教育と進修に就て(稲田穰)
 - 所感(阪田広吉)
 - 我郷(林田炭翁)
 - 和歌(仲田博一他)
- 本堂彙報
- 本会記事

5号(昭和2[1927]年2月、懷徳堂堂友会) 懷徳堂創学二百周年・同重建十周年 祭典並記念式号

- 式次第
- 祝辞
- 講演大意(藤居健治郎)
- 講演大意(狩野直喜)
- 講演大意(服部宇之吉)
- 附録(遺書遺物展覧会陳列目録)

6号(昭和2[1927]]年、懷徳堂堂友会) 永田理事長・松山教授追悼録

- 永田理事長略歴
- 永田理事長の逝去と葬儀
- 松山教授略歴
- 松山教授の逝去と葬儀
- 追悼録
 - 松山教授追悼談(狩野直樹)
 - 松山博士についての憶出(桑原隲蔵)

- 松山博士を追懐す(高瀬武次郎)
- 故松山直蔵君を憶ふ(堀維孝)
- 松山先生を憶ふ(野満隆治)
- 松山先生を憶ふ(加藤盛一)
- 松山先生を憶り奉りて(岡井慎吾)
- 松山先生を偲ぶ(西田利八)
- 松山先生の講演を回想して(三輪時雄)
- 磐舟居士の思出話(藤沢章次郎)
- 磐舟翁と春城博士(石浜純太郎)
- 故永田仁助氏を憶ふ(吉田伝治郎)
- 故永田理事長と松山教授を憶ふ(武内義雄)
- 無題(上松衡川)
- 故永田理事長故松山教授を憶ふ(今井貫一)
- 永田翁追憶談(土屋元作)
- 松山先生と私(財津愛象)
- 永田理事長と松山教授を憶ふ(稲束猛)
- 松山先生を憶ふ(吉田鋭雄)
- 追憶(町田匡子)
- わか友永田仁助君をおしみて(服部一三)
- 亡友永田仁助君をおもひて(服部一三)
- 挽歌(林森太郎)
- 春城博士松山君輓歌二首(中井天生)
- 挽磐舟永田君二首(中井天生)
- 追懐永田磐舟翁(成田軍平)
- 追懐松山博士(成田軍平)
- 輓文学博士松山先生(林田炭翁)
- 懐徳堂理事長永田仁助翁を偲ひて(林田炭翁)
- 松山博士を悼みて(林田良平)
- 永田翁を悼みて(林田良平)
- 松山先生を悼みて(寺部君子)
- 永田先生を悼みて(寺部君子)
- 松山先生を憶ふ(飯島留三郎)
- 憂愁畳来(稲田穰)
- 永田仁助先生を憶ふ(今西茂喜)
- 文学博士松山直蔵先生追悼記(今西茂喜)
- 嗚呼永田様(太田勤兵衛)

- 惜しき松山先生(太田勸兵衛)
- 永田理事長を憶ふ(音代節雄)
- 松山先生を憶ふ(音代節雄)
- 松山先生の大なる賜(小松熊之助)
- 松山先生の遺訓(小松熊之助)
- 松山先生と私(酒井全太郎)
- 松山先生を偲ふ(田中貞雄)
- 私の感想(山本楷信)
- 文学博士松山先生終焉記(小沼量平)
- 附録
 - (故永田仁助先生述『偶感隨筆』)

7号(昭和4[1929]年10月、懷徳堂堂友会)

- 漢学研究法(武内義雄)
- 「于」「於」兩字の古音に就て(財津愛象)
- 最近二三十年中中国新発見の学問(故王静安)
- 雲林院の研究(音代節雄)
- 新撰姓氏録を読みて(貝田四郎兵衛)
- 拙堂先生の楠氏研究(今西茂喜)
- 斎宮必簡に於て(白井久吉)
- 支那の祠廟(竹内峰次)
- 瞻仰微言(田中吉太郎)
- 所感(阪田広吉)
- 鳳輦を迎へ奉りて(稲田穰)
- 奉迎式場所感(小松熊之助)
- 洛東遊記並詩(三輪時雄)
- 詩並歌(林田炭翁)
- 歌(林田良平)
- 歌(寺部君子)
- 文学博士西村君墓表(内藤虎次郎)
- 碩園西村先生年譜(吉田鋭雄)
- 本堂記事
- 本会記事(山本楷信)
- 編輯を終りて(酒井全太郎)

8号(昭和5[1930]年10月、懷徳堂堂友会)

- 芸文
 - 懐徳(秋月胤継)
 - 我等の祖先の思想(井上通泰)
 - 日本国体と封建制度との関係(牧健二)
 - 奈良時代の美術(佐々木恒清)
 - 雲林院の研究(音代節雄)
 - 正義公本来の面目(今西茂喜)
 - 知足の説(小沼量平)
- 丹波の山国紀行(小沼量平)
- 春季探勝会の記(藤塚誠二・中納愛子・酒井全太郎)
- 詩(鈴木虎雄)
- 詩(三輪時雄)
- 歌(林田良平)
- 歌(仲田応弘)
- 本堂記事・本会記事
- 編輯を終へて(山本檜信)
- 記念講演
 - 章学誠の史学(内藤虎次郎)
 - 易伝の道德思想(武内義雄)

9号(昭和6[1931]年10月、懐徳堂堂友会)

- 芸文
 - 巻頭言「仆而復興」(小倉正恒)
 - 孝の話(狩野直喜)
 - 宋元版の話(内藤虎次郎)
 - 山崎闇斎と保科正之(秋月胤継)
 - 教育勅語と国民道德(野田義夫)
 - 草廬三顧の地の所在(鈴木虎雄)
 - 包丁の故実につきて(林森太郎)
 - 安政以降の大阪学校(中井終子)
 - 新懐徳堂建設まで(今井貫一)
 - 現代歴史観の展望(牧健二)
 - 漢民族の成立に就て(小川琢治)
 - 学書三昧(武内義雄)
 - 義公水戸光圀卿(江崎政忠)
 - 偶感(勝木忠兵衛)

- 正儀公本来之面目(承前)(今西茂喜)
- 雲林院の研究(承前)(音代節雄)
- 漢詩(成田軍平)
- 漢詩(林田安平)
- 和歌(林田良平)
- 和歌(仲田応弘)
- 和歌(寺部君子)
- 秋季探勝会の記(仲田応弘・森義見・佐野鈴子・春原咲子)
- 桂・修学院両離宮拝観記(音代節雄)
- 懐徳堂記事・堂友会記事
- 編輯後記(山本楷信)

10号(昭和7[1932]年10月、懐徳堂堂友会)

- 芸文
 - 誠に就て(服部宇之吉)
 - 歴史上より見たる満州(矢野仁一)
 - 己巳残愁録(中井木菟麻呂)
 - 天保山は如何して出来たか(江崎政忠)
 - 漢詩(鈴木虎雄)
 - 漢詩(林田炭翁)
 - 和歌(林田良平)
 - 和歌(仲田応弘)
 - 嗚呼財津先生(太田勘兵衛)
- 斑鳩巡り(貝田四郎兵衛)
- 豊公遺蹟踏査記(仲田応弘・桑原直子)
- 懐徳堂記事
- 本会記事
- 編纂を終りて
- 財津桃溪先生遺稿
 - 財津先生遺影及墨跡附略歴
 - 燉煌出土漢蔵対音の材料と韵鏡との比較(財津愛象)
 - 唐代音と日本所伝音との比較(財津愛象)
 - 楚辞と漢賦(財津愛象)
 - 竇娥冤雑劇(財津愛象)
 - 碑文一篇(財津愛象)
 - 漢詩一首(財津愛象)

- 俳句十句(財津愛象)

11号(昭和8[1933]年10月、懷徳堂堂友会)

- 芸文
 - 陰陽五行説と現代の科学(新城新蔵)
 - 後光明天皇の御事蹟に就て(江崎政忠)
 - 浅見綱齋先生及び其の門流(大塚末雄)
 - 懷徳堂遺物寄進の記(中井木菟麻呂)
 - 富永仲基の論語徴駁説(吉田鋭雄)
 - 邦国両字の異同及び推移に就て(丸山正三郎)
 - 漢詩文(望金剛山記)(秋月胤繼)
 - 漢文(月前懷旧記)(中井天生)
 - 漢文(読酒誥)(岡山源六)
 - 漢詩(高瀬武次郎)
 - 漢詩(鈴木豹軒)
 - 漢詩(中井天生)
 - 漢詩(小倉正恒)
 - 漢詩(岡山源六)
 - 俳句(藤塚紅果)
 - 和歌(仲田応弘)
- 探勝会の記(白井文溪・桑原直子・仲田応弘)
- 懷徳堂記事
- 本会記事
- 編輯を終へて(山本楷信)

12号(昭和9[1934]年10月、懷徳堂堂友会)

- 支那に於ける印度音訳字の二三に就て(松本文三郎)
- 古社寺の行脚(中村直勝)
- 室町時代より江戸時代にかけての漢学(武藤長平)
- 漢文(岡山源六)
- 漢詩(秋月胤繼)
- 漢詩(岡山源六)
- 歌(仲田応弘)
- 久米田寺と開口神社へ(仲田応弘)
- 懷徳堂記事

- 本会記事(山本楷信)
- 編輯を終へて(酒井全太郎)
- 解脱上人の出られた家柄(内藤虎次郎)
- 内藤先生追憶談(狩野直喜)
- 内藤湖南先生を憶ふ(小倉正恒)
- 内藤湖南先生を憶ふ(今井貫一)
- 懷徳堂旧記
 - 学問所建立記録
 - 懷徳堂定約
 - 懷徳堂定約附記
 - 懷徳堂内事記
 - 懷徳堂外事記

13号(昭和10[1935]年10月)

- 人間性(小西重直)
- 我が上古文学と漢学(阪倉篤太郎)
- 富永謙斎先生伝考補(石浜純太郎)
- 漢文(岡山源六)
- 漢詩(鈴木虎雄他5名)
- 歌(川田順他1名)
- 俳句(藤塚紅果)
- 懷徳堂記事・本会記事
- 編輯を終へて(山本楷信)
- 謙斎遺稿(吉田鋭雄拾遺)
- 懷徳堂旧記
 - 学校公務記録
 - 学問所來歴覚書
 - 学問所謝儀等に就ての竹山意見書並定書
 - 懷徳堂義金簿
 - 御同志中相談覚
 - 三宅幸蔵変宅に付御同志中へ懸合覚候
 - 逸史献上記録
 - 竹山先生遺状

14号(昭和11[1936]年10月、懷徳堂堂友会)

- 孝治の話(狩野直喜)
- 漢字漢語管見(新村出)
- 城崎の温泉寺と香住の応挙寺(源豊宗)
- 書道と学問(岡山源六)
- 二十周年回顧の一端(吉田鋭雄)
- 正倉院御物を拝観して感銘の数々(稲田穰)
- 漢詩(秋月胤継)
- 漢詩(岡山源六)
- 漢詩(林田炭翁)
- 漢詩(佐野碧玲)
- 漢詩(春原玉英)
- 歌(林田良平)
- 俳句(白井文溪)
- 俳句(山田平歩)
- 俳句(浦山右拙郎)
- 俳句(村井多喜女)
- 俳句(古谷美津女)
- 俳句(藤塚紅果)
- 懐徳堂記事
- 堂友会記事(酒井全太郎)
- 編輯を終へて(山本楷信)
- 懐徳堂旧記拾遺
 - 懐徳堂文書六巻
 - 学問所建立文書(上・下)
 - 学校再建文書
 - 大阪学校書類
 - 学校公務書類
 - 衙尹御入文書
 - 安政六年助成金証書四通附逸史板賃榻一札
 - 義金助成金簿
 - 懐徳堂記録拾遺
 - 学問所再建書類
 - 家名相続願
 - 中井履軒出立届
 - = [イナ] 太郎宗家家督証文並請書

15号(昭和12[1937]年10月、懷徳堂堂友会)

- 儒教の倫理観(武内義雄)
- 新史観の提唱(作田荘一)
- 川田雄琴先生事状(高瀬武次朗)
- 能楽鑑賞(阪倉篤太郎)
- 多田神社(中村直勝)
- 漢詩(鈴木虎雄)
- 漢詩(秋月胤継)
- 漢詩(春原暎子)
- 漢詩(佐野鈴子)
- 漢詩(末永房野)
- 和歌(音代湘園)
- 俳句(山田平歩)
- 俳句(沢北斗)
- 俳句(白井文溪)
- 俳句(古谷みつ)
- 俳句(末永ふさの)
- 重建二十周年記念式辞と祝辞
- 懷徳堂記事
- 本会記事(酒井全太郎)
- 編輯を終へて(山本楷信)
- 附録
 - 懷徳堂夜話

16号(昭和13[1938]年10月、懷徳堂堂友会)

- 朱陸王三子の異同に就きて(秋月胤継)
- 故新城新蔵博士と事変下の支那文化(荒木駿馬)
- 独逸の青年運動(高橋俊乗)
- 楠木正成の紀州経路(音代節雄)
- 漢詩
 - 古今体詩五種(鈴木虎雄)
 - 雲介先生岡山君挽歌(中井天生)
 - 哭雲介先生二首(吉田鋭雄)
 - 今茲五年念二日陪惺軒博士謁蕃山堂(林田炭翁)
- 和歌

- 近詠五種(高田保馬)
- 幼な心(音代節雄)
- 銃後の片片(仲田応弘)
- 岡山先生御重態のよしをきゝて(上羽浅子)
- 俳句
 - 雑(白井文溪)
 - 雑(山田平歩)
 - 夏四句(沢北斗)
 - 水上生活(古谷みつる)
 - 雑(藤塚紅果)
- 懐徳堂記事
- 堂友会記事
- 編輯を終へて
- 附録
 - 息抱齋詩稿(岡田雲介先生遺書)(吉田鋭雄録)

17号(昭和14[1939]年10月、懐徳堂堂友会)

- 第一回日英同盟の成立とドイツ帝国(時野谷常三郎)
- 平安朝後期に於ける家外の経学(大江文城)
- 三十三間堂(源豊宗)
- 万葉集卷一抄(仲田応弘)
- 文
 - 継水哉館称号告本支二家諸先生文(中井木菟麻呂)
 - 袖章記(吉田鋭雄)
- 詩
 - 題赤壁夜遊図・早秋書懷(武藤甚)
 - 春日閑詠・新夏雨窓(酒井全)
 - 月前記懷・雁来紅(春原暎子)
 - 秋庭・夏雨窓(佐野鈴子)
- 歌
 - 近詠五首(仲田応弘)
 - 近詠五首(音代湘園)
- 俳句
 - 爽秋(入江来布)
 - 雑詠(白井文溪)
 - 懐徳堂見学(沢北斗)

- 堂友会記事(酒井全太郎)
- 編輯を終へて(山本櫓信)
- 附録
 - 懷徳堂水哉館遺書遺物目録(吉田鋭雄録)

18号(昭和15[1940]年10月、懷徳堂堂友会)

- 朱子の白鹿洞書院について(鈴木虎雄)
- 石庵先生行状(中井天生)
- 余情(沢瀉久孝)
- 詞藻
 - 樓居賦(中井天生)
 - 鈴木無隠翁伝(大江万里)
 - 漢詩四首(秋月胤繼)
 - 漢詩四首(吉田鋭雄)
 - 漢詩三首(武藤甚)
 - 漢詩二首(春原暎子)
 - 漢詩二首(佐野鈴子)
 - 和歌五首(音代節雄)
 - 和歌六首(仲田応弘)
 - 俳句十句(入江来布)
 - 俳句六句(白井文溪)
 - 俳句五句(山田平夢)
 - 俳句五句(村上椽宿)
- 懷徳堂記事(酒井全太郎)
- 編輯を終へて(山本櫓信)
- 附録
 - 石庵先生遺稿(吉田鋭雄拾輯)

臨時増刊号(昭和16[1941]年5月、懷徳堂堂友会)

- 所感(狩野直喜)
- 紀元二千六百年奉祝式に際して(小倉正恒)
- 紀元二千六百年奉祝式の記(山本櫓信)

19号(昭和16[1931]年10月、懷徳堂堂友会)

- 皇道と儒道(秋月胤繼)

- 贅庵先生貽範家君行状(中井天生)
- 入声に就いて(張源祥)
- 詞藻
 - 金剛子念珠銘并序(中井天生)
 - 漢詩(吉田鋭雄・武藤甚・春原咲子)
 - 和歌(音代節雄・仲田応弘・立川三千代)
 - 俳句(入江来布・白井文溪・山田平歩・村上椋宿・竹内青心)
- 重建二十五周年に際して(仲田応弘・音代節雄・岡田主次)
- 懷徳堂記事
- 堂友会記事(酒井全太郎)
- 編輯を終へて(山本楷信)
- 附録
 - 贅庵先生遺稿(吉田鋭雄録)
 - 懷徳堂所蔵 懷徳堂先賢著述書目(吉田鋭雄録)

20号(昭和17[1942]年10月)

- 懷徳堂の経学(武内義雄)
- 懷徳堂遺聞(羽倉敬尚)
- 万年先生と来山翁(入江来布)
- 旧懷徳堂を聴く会(藤塚誠二記)
- 文藻(中井木菟麻呂他10名)
- 懷徳堂記事
- 記念祭並二十五周年記念式
- 堂友会記事(酒井全太郎)
- 編輯を終へて(山本楷信)
- 老婆心

21号(昭和18[1943]年10月、懷徳堂堂友会)

- 古典と古語(沢瀉久孝)
- 并河二難事彙(羽倉敬尚)
- 芭蕉の二百五十年と大阪の文化(入江来布)
- 誤解された西行法師の歌(音代節雄)
- 文藻(秋月胤継・吉田鋭雄・武藤甚・音代節雄・仲田応弘・入江来布・白井文溪)
- 懷徳堂記事
- 本会記事

- 故大久保侯爵告別式参列に就て(大田勘兵衛)
- 編輯を終へて(山本櫓信)
- 附録
 - 懷徳堂堂友会会員名簿(昭和18年10月現在)

22号(昭和26[1951]年10月、懷徳堂堂友会)

- 卷頭言(小倉正恒)
- 現代の学問と懷徳堂(木村英一)
- 町人の文化(藤直幹)
- 漢字文化の過去と現在(木村英一)
- 懷徳堂の文学(神田喜一郎)
- 王静安先生を追想す(座談会)
- 「懷徳」の復刊を聞いて(武内義雄)
- 彙報(以下每号省略)

23号(昭和27[1952]年9月、懷徳堂堂友会)

- 上代東西海上交通史話(桑田六郎)
- 香料の源流(山田憲太郎)
- 天文曆法により観たる東西文化の比較(能田忠亮)
- 慈雲尊者伝(木南卓一)

24号(昭和28[1953]年10月、懷徳堂堂友会)

- 能楽の詞章としての謡曲(阪倉篤太郎)
- 中国芸術学試論(小林市太郎)
- 竹山先生の文学(神田喜一郎)
- 永根伍石について(井上翠)
- 懷徳堂回顧座談会
- 懷徳堂を思ふ

25号(昭和29[1954]年10月、懷徳堂堂友会)

- 明治医学の一隅(古武弥四郎)
- 「かからむとかねて知りせば」(沢瀉久孝)
- 中国古代の經濟倫理思想(張源祥)
- 一老莊思想家の著作と生涯—鬱[ケイ]康に就いて—(清水潔)

- 李門公の文学(黒江一郎)
- 淀川三十石船とくらわんか舟(音代節雄)

26号(昭和30[1955]年10月、懷徳堂堂友会)

- 周易について(昭和29年懷徳堂春季古典講座講演)(木村英一)
- 春秋(昭和28年懷徳堂春季古典講座講演)(重沢俊郎)
- 元遺山の史詩(昭和30年懷徳堂春季古典講座講演)(鈴木虎雄)
- 猿の生肝(高橋盛孝)
- 契沖、曼陀羅院・円珠庵(八木毅)
- 王仁塚(片山長三)
- 彙報(以下每号省略)
- 懷徳堂堂友会会員名簿・会則(以下每号省略)

27号(昭和31[1956]年10月、懷徳堂堂友会)

- 王維の話(昭和30年懷徳堂春季古典講座講演)(橋本循)
- 荀子の後王思想(鈴木隆一)
- 荀子に於ける存在論的思惟の有無について(柳本実)
- 折箭盟誓考(岡崎精郎)
- 鉄斎画讃(金杉光子)
- 雑録の一節(仲田応弘)

28号(昭和32[1957]年10月、懷徳堂堂友会)

- 卷頭言(小倉正恒)
- 論叢
 - 蘇東坡とその書(中田勇次郎)
 - 仏教伝来文献に就いて(桑田六郎)
 - 論語の朱子学的理解(木南卓一)
 - 万葉集「神之崎狭野」の試訓(音代湘園)
 - 絵画をもつともよく工芸した人(金杉光子)
- 回想録
 - 懷徳堂と和学(小島吉雄)
 - 懷徳堂の史学—中井竹山の『逸史』を中心として—(藤直幹)
 - 天明・寛政期の懷徳堂(時野谷勝)
 - 回想の懷徳堂
 - 懷徳堂に関する随想(小倉正恒)

- 懐徳堂の思ひ出(武内義雄)
- 懐徳堂に関する思出(鈴木虎雄)
- 懐徳堂の思ひ出(阪倉篤太郎)
- 懐徳堂を思出して(石浜純太郎)
- 懐徳堂講座七ヶ年の成績を省みて(木村英一)

29号(昭和33[1958]年10月、懐徳堂堂友会)

- 孟子(昭和33年懐徳堂春季古典講座講演)(木村英一)
- 北宋思想界の動向(木南卓一)
- 文献による体験の再認識について—図式の問題—(鈴木喜一)
- 万葉集「佐太の浦」考(音代湘園)
- 赤獅堂議論(宮川尚志)
- 堂友の雑録(井口金次郎・酒井全太郎・中尾金弥・中川幸三・仲田応弘・山本楷信)

30号(昭和34[1959]年10月、懐徳堂堂友会)

- 聖諭広訓に就いて(狩野直樹)(大正15年懐徳堂恒祭記念講演)(遺稿)
- 淮南子の論法に関する一考察(鈴木喜一)
- 林良斎研究(木南卓一)
- 上代文学に仏教がどのやうに表出されてゐるか(八木毅)
- 君が代啓蒙—古典的儀礼歌の超階級意識—(音代湘園)
- 蓆山医伯淡輪元潜行状(羽倉敬尚)
- 偶感(伊藤茂雄)

31号(昭和35[1960]年10月、懐徳堂堂友会)

- 周易(昭和34年懐徳堂春季古典講座講演)(本田濟)
- 莊子(昭和34年懐徳堂春季古典講座講演)(福永光司)
- 石田梅岩(木南卓一)
- 荀子の礼の内面性に関する一考察(鈴木喜一)

32号(昭和36[1961]年10月、懐徳堂堂友会)

- 韓愈の文学における諧謔とユーモア(清水潔)
- 王文成公全書の合刻について(鈴木隆一)
- 河内百濟寺の仏舎利流伝(音代節雄)
- 似雲法師の生涯(一箭喜美子)

- 文永の役に神風は来なかつた、という荒川理博の新説について(山口秀樹)
- 思ひおこすことども(伊藤茂雄)
- おもいおこすことども(川尻進)
- 折々のうた(綿谷善平)
- 狂歌(愚老山人)

33号(昭和37[1962]年10月、懷徳堂堂友会)

- 大学と中庸(昭和36年懷徳堂春季古典講座講演)(木村英一)
- 懷徳堂創設期の人々—三宅石庵と中井齋庵—(大月明)
- 論語に於ける人間形成の出発点(鈴木喜一)
- ニコライ・A・ネフスキ氏の業績と生涯(岡崎精郎)
- 前理事長小倉正恒翁追憶録
 - 〈写真〉小倉正恒翁遺影
 - 詩(小倉簡齋輓章二首)(鈴木虎雄)
 - 小倉さんを思ふ(今村荒男)
 - 小倉簡齋先生を思ふ(神田喜一郎)
 - 追憶(貝塚茂樹)
 - 簡齋尚書を弔ふ(吉川幸次郎)
 - 先生の思い出(藤直幹)
 - 小倉正恒翁を憶ふ(音代節雄)
 - 敬弔小倉理事長(岡野廉平)
 - 小倉前理事長を憶ふ(木村英一)

34号(昭和38[1963]年10月、懷徳堂堂友会)

- 四庫分類の歴史(鈴木隆一)
- 風姿花伝(田中裕)
- 絵事後素考—漢宋両学の批判(鈴木喜一)
- 懷徳堂と医学また医家(羽倉敬尚)
- 「ニコライ・A・ネフスキ氏の業績と生涯」補遺(岡崎精郎)
- 宗教の心のはたらき(川尻進)

35号(昭和39[1964]年10月、懷徳堂堂友会)

- 五服・九州説の展開(野村茂夫)
- 忘れられた上方の填詞作家について(水原渭江)
- 魏源思想試論(坂出祥伸)

- 曾子と《曾子》学派—孝哲学史研究その二—

36号(昭和40[1965]年10月、懷徳堂堂友会)

- 懷徳堂記念会の諸先生
 - 若き日の天囚—西村先生生誕百年に因んで—(後醍院良正)
 - 新美寛氏の追憶(鈴木隆一)
- 講演と研究
 - 経書の成り立ち(昭和40年懷徳堂春季古典講座講演)(木村英一)
 - 近代上方における二人の漢詩作家—磯野秋渚・芝川紫草—(水原渭江)
 - 《韓非子》における〈矛盾〉説話(加地伸行)

37号(昭和41[1966]年10月、懷徳堂堂友会)

- 懷徳五十年(木村英一)
- 追思のよすが
 - 懷徳堂師儒四家の系図(羽倉敬尚)
 - 講演余響
 - 五井蘭州(西村天囚述)
 - 篠崎小竹(木崎好尚述)
 - 続・若き日の天囚(後醍院良正)
 - 誼卿武内義雄先生の学問(金谷治)
- 回顧録
 - 西村天囚先生のことども(橋本循)
 - 西村碩園先生の思ひ出(神田喜一郎)
 - 父の少壮時に関する資料(内藤乾吉)
 - 一聴講生に映じた松山先生の憶ひ出(中村幸三)
 - 財津愛象先生の思い出(森三樹三郎)
 - あのころの懷徳堂(外山軍治)
 - 吉田鋭雄先生を憶う(高木正一)
 - 故吉田先生の裏話(盾井宗一)
 - 今井館長と上松老人のこと(山村太郎)
 - 懷徳堂の思い出(香川修一)
 - 懷徳堂の追想(岡野廉平)
 - 堂友の断想雑録(藤塚誠二・中川幸三・山本檜信・岩淵賢治・御堂恒祐・長沢菱花・土屋隆一・本田弘)
 - 阪倉先生を困んで(山口正男編)

- 京都北白川に源先生をお訪ねして(酒井・藤塚・山口・桐本)
- 堂友会座談会(井上・石井・岩淵・中田・井口・中島・長沢・宇野・伊藤・酒井・山口・桐本・川尻・田中)
- 論叢
 - 仲統長の思想(神楽岡昌俊)
 - 孔子—その礼説を中心とする一考察—(松代尚代)
 - 良寛の短歌について(長谷完治)

38号(昭和42[1967]年10月、懷徳堂堂友会)

- 〈口絵〉印影「懷徳万年」「蘭州」「純禎」「梅塢」「誠之」「鳳来」「享先」「寒濤」(羽倉敬尚輯)
- 生命と精神(開講五十周年記念講演)(沢瀉久敬)
- 学校・教育談義
 - 近代的学校教育の萌芽(時野谷勝)
 - 学問・教育の明治百年(梅溪昇)
 - ヨーロッパにおける市民教育の起源—とくにフランス革命期の初等教育を中心に—(豊田堯)
 - 中国における学校の起源—孔子以前の学校について—(木村英一)
- 復性書について(大西晴隆)
- 荀子の礼説—その社会政治思想的意義からみた一考察—(松代尚江)

39号(昭和43[1968]年10月、懷徳堂堂友会)

- 魏晋之莊学(黄錦鏞 [コウ])
- 太極図・説成立考(大西晴隆)
- 後漢の党錮(神楽岡昌俊)
- 山形蟠桃と多田義俊—愛日文庫蔵書をめぐって—(宮内徳雄)

40号(昭和44[1969]年10月、懷徳堂堂友会)

- 私の孔子論(鈴木喜一)
- 「孫子」の思想(神楽岡昌俊)
- 近世上方の文芸についての管見(水原渭江)
- 藤井竹外略伝(北村学)
- 山形蟠桃の「草稿抄」
- 懷徳堂と独創科学者麻田剛立(羽倉敬尚)

41号(昭和45[1970]年10月、懷徳堂堂友会)

- 懷徳堂回顧録(羽倉敬尚)
- 俳人泉石としての三宅石庵(桜井武次郎)
- 金比羅別家木村家の人人(松原秀明)
- 多松堂設立に関与した木村寸木について—臨地見学会前後の経緯より—(山口正男)
- 天罰から人怨へ(橋本高勝)
- 〈黄老〉派の輪郭—道家学派成立史試論—(岩佐昌暉)

42号(昭和47[1972]年10月、懷徳堂堂友会)

- 懷徳堂師儒、三宅・中井二家系図の訂正(羽倉敬尚)
- 大壺石浜純太郎先生・人と生涯—特に大阪人として—(村田忠兵衛)
- 昌平黌 [コウ] 書生寮姓名録(梅溪昇)
 - 懷徳堂本「昌平黌 [コウ] 書生寮姓名録」の公刊にあたって
 - 書生寮姓名録 弘化丙午以来
 - 姓名索引・主人名備考・藩名備考

43号(昭和48[1973]年10月、懷徳堂堂友会)

- 論語に現われた信の概念について(木村英一)
- 「懷徳堂本昌平黌 [コウ] 書生寮姓名録の公刊にあたって」(本誌42号)の補正(梅溪昇)
- 大坂の草わけ国学者下河辺長流と懷徳堂(羽倉敬尚)

44号(昭和49[1974]年10月、懷徳堂堂友会)

- 中井木菟麿翁の業歴—旧教聖書及び正教聖典の翻訳に献身尽力—(羽倉敬尚)
- 前号「下河辺長流と懷徳堂」の追記(羽倉敬尚)
- 吉田北山先生(石浜純太郎)
- 名の意識より見た春秋大夫—特に戦国士人のそれと比較して—(塘耕次)
- 紹介
 - 中国語のすすめ(木村英一)
 - 日本の学生に中国語の勉強をすすめたい(中屋成彬)
- 見学会
 - 近江地方第二回見学会記その他(沢美枝・大塚五輪坊・藤塚誠二)

45号(昭和50[1975]年10月、懷徳堂堂友会)

- 「学び」と「問い」—ドイツ文学の視点から—(田中健二)
- 故父吉田北山について(吉田晋)
- 周公と尚書の展開—周の東方性について—(北村良和)
- 呉山社と吉田先生(酒井全太郎)
- 岡野廉平翁を送る(木村英一)

46号(昭和51[1976]年10月、懐徳堂堂友会)

- 漢字と日本の固有名詞(池上禎造)
- 下河辺長流碑の修復再建(羽倉敬尚)
- 中井氏先代玄端墓の発見(羽倉敬尚)
- 虞世南—その書と人—(塘耕次)
- 堂友会夏季見学会記(藤塚誠二)
- 色褪せた華鬘—葛川紀行—(大路とし子)

47号(昭和52[1977]年10月、懐徳堂堂友会)

- 北京の書舗(遺稿)(吉田鋭雄)
- 文豪頼山陽の賢母静子梅隠[シ]夫人の実家篠田家の墓(羽倉敬尚)
- 孟子の作俑について(北村良和)
- 酒井君を偲びて(中川幸三)
- 堂友会の見学会
 - 湖北の旅—観音像にみる朱の唇—(大路とし子)
 - 近江路見学の記(栗生照子)

48号(昭和53[1978]年10月、懐徳堂堂友会)

- 有物有則の解釈について(橋本高勝)
- 仲統長の思想(串田久治)
- 呉山社と酒井君(中川幸三)
- 鳴谷遺稿(中川幸三編)
- 酒井先生にさゝぐ(齋藤フサ子)
- 若狭の国の仏たち(野々村富二良)
- 若さの古社寺巡礼(塘耕次)
- 夏期一泊見学会の記—七月二十二日・二十三日—(三原辰之助)

49号(昭和54[1979]年10月、懐徳堂堂友会)

- 關於莊子「情」与「礼」的研究(黄錦琮 [コウ])
- 銀雀山漢墓竹簡《孫子》校訂(武藤博久・大川俊隆・野間和則)
- 吉田先生と素読
 - 素読の思い出(今川せい)
 - 素読の思い出(今川ふさ)
- 近江を探ねる(鳩遠江)

50号(昭和55[1980]年10月、懷徳堂堂友会)

- 懷徳堂先賢の業績と遺品との蒐集・整理・保存に関する近況について(木村英一)
- 中井竹山の詩についての覚書(笈月嬌)
- 堂友会例会見学会の案内記(口述筆記)(宇野茂樹)
- かくれ里と湖上の旅—その随想—(鳩遠江)